

富士見の景観

上蔦木の三光寺の境内に入ると、階段下の側に、大きな「カヤ」の木がある。目通り275cm、高さは15mくらい。樹齢は200年ほどだろうか。根元はどっしりと太く地上から10m位までは枝がない。側に大きなスギに木が並んでいて、幹は南の方へ傾き、陽ざしを受けられるように、同じ

曹洞宗永平寺の道元禪師さまの好んでいたという「かやの実」を、寺で毎年拾いお供えしているという。カヤの長い寿命にあやかり、村人の長寿と幸せを願う。木の下には地藏菩薩が立っており子どもたちの健やかな成長を見守っていた。

方へ枝を長く伸ばしている。薄い灰褐色の木肌は、一面が2cm位の深さで裂けていて上の方まで続いている。雌株であるので、秋には楕円形の2〜3cmほどの実をたくさん落とす。



問 富士見町役場 建設課 都市計画管理係

☎ 026-92216

かやの実はずた…もう寝よよ♪

カヤ【榧、学名:Torreya nucifera】イチイ科(またはイヌガヤ科)カヤ属の常緑針葉樹。日本の九州、四国、本州中南部、朝鮮半島に分布。群馬・福島県あたりが北限となります。雌雄異株で成長は極めて遅いが寿命は長いようです。枝は対生し、側枝は三叉刺状に伸びます。葉先は鋭く尖っていて不用意に触れると指に刺さる場合もあります。花期は4-5月頃。雄花は長さ1cmほどの楕円形で、前年に出た葉の付け根につきます。雌花は新枝の基部の葉の付け根に幾つか付きますが、結実するのは通常そのうちの1個のみです。カヤ材でもっとも知られている用途は碁盤、将棋盤、連珠盤などで、これらは様々な材の中でカヤで作られたものが最高級品とされています。種子は食用とります。そのままではヤニ臭くアクが強いので数日間灰汁抜きしたのち煎るか、土に埋め皮を腐らせてから蒸して食べます。果実から取れる油は食用・灯火用に使われます。山梨県では郷土の食品として、実を粒のまま鮎にねりこみ、板状に固めた「かやあめ」として、縁日などで売られています。間伐材や枝は燻して蚊を追い払うために使われていました。カヤの語源はこの「蚊遣り」に由来するという説があります。



アーモンド形の「かやの実」

「かやの木山の」

作詩 北原白秋
作曲 山田耕筰

かやの木山(きやま)の
かやの実は
いつかこぼれて
ひろわれて

山家(やまが)のお婆(ば)さは
いろいろ端(ばた)
粗朶(そだ)たき 柴(たき)
燈(あかり)つけ

かやの実 かやの実
それ 爆(は)ぜた
今夜も雨(あ)だろ
もう寝(ね)よよ

お猿(さる)が啼(な)くだで
早(は)よお眠(ね)よ

- ◆町の人口と世帯数 平成24年1月1日現在(前月比)
住民基本台帳人口 男性/7,545人(-2) 女性/7,752人(-2) 合計/15,297人(-4) 世帯/5,723世帯(-5)
- ◆発行日 平成24年2月1日
- ◆編集・発行 富士見町役場 総務課 〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町落合10,777 TEL0266-62-2250(代) FAX0266-62-4481
- ◆ホームページ <http://www.town.fujimi.nagano.jp> Eメール fujimi@town.fujimi.nagano.jp ◆印刷 (有)富士見印刷